

科目名		現代の国語		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	現代の国語（筑摩書房） 新しい常用漢字（数研出版） 現代評論選（数研出版） 新国語総合ガイド（啓隆社）
学年 学級	1 年創造理数クラス （1 クラス）	単位数	2 単位	教科 担当	大坪	

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	「ことばとは何か」（教科書） 「言語学とは何か」（評論選） 「境目」（教科書） 「主体という物語」（教科書） 「開かれた文化」（教科書） 「誰かの靴を履いてみること」（教科書）	・ 評論文の用語を理解し、語彙力を高める。 ・ 評論文の構造をつかむ。 ・ 主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・ 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握する。 ・ 目的に応じて、文章やそのほかの情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈して、自分の考えを深める。 ・ 言葉がもつ価値や役割を認識して、理解を深める。
2 学期	中間まで 「贈り物と商品の違い」（教科書） 「マルジャーナの知恵」（教科書） 「終わりなき差異化と模倣の反復」（評論選） 「来るべき民主主義」 期末まで 「デジタル社会」（教科書） 「メディアと倫理」（評論選） 「ポスト真実時代のジャーナリズム」（教科書）	・ 評論文の用語を理解し、語彙力を高める。 ・ 評論文の構造をつかむ。 ・ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、考えを深める。 ・ 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握する。 ・ 目的に応じて、文章やそのほかの情報を相互に関連付けながら、文章の構成や論理の展開などを把握して、自分の考えを深める。 ・ 文章を読んで掴んだ主題を言葉に実社会と結びつけ、自分の考えが的確に伝わるよう明確に表現する。
3 学期	「名づけと所有」（教科書） 「何となく日本人」（評論選） 「グローバリズムとニヒリズム」（評論選） 「美学への招待」（評論選） 「感性は感動しない」（評論選）	・ 評論文の用語を理解し、語彙力を高める。 ・ 評論文の構造をつかむ。 ・ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めて、実社会との関わりに応用する。 ・ 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握する。 ・ 目的に応じて、文章やそのほかの情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするなどして、自分の考えを深める。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 休業中の課題や、小テスト・提出課題は、計画的・継続的に取り組み、必ず復習する。
- 2 授業中は、学習活動に集中し、提示された内容について深く考え、自分の言葉で説明する努力をする。
- 3 課題テスト・定期考査・模試は、返却後よく点検し、間違えた問題についてはなぜ間違えたのかを明らかにし、復習して定着を図る。
- 4 詳細は、各担当者の指示に従うこと。

評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 情報発信力 (表現力・論述力)	粘り強く取り組む力
評価規準			・日常生活や社会との関連を比較、分類して理解できる。 ・評論文中における語彙を正しく理解し、文章の中で使用することを通して語彙を身に付けている。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身に付けている。	・文章を対比、分析、解釈することができている。 ・演習等を通して、推論、図解、検討することができている。 ・論理的に思考する力を身につけ、的確に表現することができている。	・文章で述べられている事柄について関心を持ち、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 ・評論における構成や論理の展開に注意しながら読解し、内容を的確に解釈する態度を身に付けている。 ・多様な仲間と協働する姿勢を身に付けている。 ・粘り強く課題に取り組む姿勢を身に付けている。 ・文章で読んだ内容を実社会と結びつけて、さらに深く思考することができる。
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	・日常生活や社会との関連を図りながら、文章を整理し、説明できる。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身につけ、応用できる。	文章や言語を対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、身につけ、習熟し、さまざまな場面で応用できる。	・文章で述べられている事柄について関心を持ち、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけて、常に行動に移すことができる。 ・文章を解釈し、仮説を立て、検証する態度を身につけている。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけて、常に行動に移すことができる。
B	立高生として求める標準	レベル3	・日常生活や社会との関連を図りながら、文章を理解し、定義する。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身につけ、活用できる。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、身につけ、習熟している。	・文章で述べられている事柄について関心を持ち、主体的に関わりようとする態度を身につけて、行動に移すことができる。 ・文章を解釈し、理解する態度を身に付けている。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけて、行動に移すことができる。
		レベル2	・日常生活や社会との関連を図りながら、文章を理解し、反復、引用する。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能をある程度身につけている。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、概ね身につけている。	・文章で述べられている事柄について主体的に関わりようとする態度を身につけて、行動しようとする努力している。 ・文章を理解する態度を身につけている。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけ、行動しようとする努力している。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	日常生活や社会との関連を図りながら、文章を理解する。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を理解している。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解している。	・文章で述べられている事柄について主体的に関わりようとする態度を身につけようとする努力している。 ・文章を理解することの重要性を理解している。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけようとしている。
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載

科目名	言語文化		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	精選言語文化（東京書籍） 完全マスター古典文法（第一学習社） 新明説漢文（尚文出版） 新国語総合ガイド（啓隆社） ちくま小説入門（筑摩書房）
学年 学級	1 年創造理数科 （1 クラス）	単位数	2 単位	教科 担当	石井

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	中間まで 古文・古文の基本「ちごのそら寝」 ・「絵仏師良秀」（宇治拾遺物語） ・「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の話」（今昔物語集） 漢文・訓読の基本 ・「助長」 ・「推敲」 期末まで 古文・「大江山」（十訓抄） ・「芥川」「東下り」「筒井筒」（伊勢物語） 漢文・故事「借虎威」 ・故事「塞翁馬」 期末後 現代文・「羅生門」	・歴史的仮名遣いの特徴とその読み方について理解し、本文を正確に音読している。 ・古文に特有の語や文法を認識し、古語辞典や文法書を使うことができる。 ・活用概念と、係り結びを理解している。 ・用言の活用を理解し活用表を作成できる。 ・訓点を理解し漢文を書き下し文にできる。 ・本文を正しく音読することができる。 ・文法事項を踏まえて現代語訳できる。 ・漢文の句形を理解し中国の歴史や文化に親しみながら漢文を読むことができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について考えを深めることができる。
2 学期	中間まで 古文・「門出」「帰京」（土佐日記） ・「丹波に出雲といふ所あり」（徒然草） 漢文・文章「雑説」 ・唐詩「鹿柴」「春暁」「涼州詩」「春望」 ・「香炉峰下」 期末まで 古文・「花は盛りに」（徒然草） ・和歌 万葉集 20、318、3373 - 古今集 53、169、552 - 新古今 361、362、363 - 修辞全般 漢文・史伝「管鮑之交」 ・史伝「朝三暮四」 現代文 「小景異情」「一つのメルヘン」 期末後 ・「木曾の最期」（平家物語）	・本文を正しく音読することができる。 ・基本的な助動詞・助詞の意味用法について理解している。 ・文法事項を踏まえて現代語訳できる。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解して、作品や文章を読み味わうことができている。 ・基本的な句形と近体詩のきまりを理解し唐詩を鑑賞することができる。 ・文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について考えを深めることができる。
3 学期	古文 ・「かぐや姫誕生」 ・「かぐや姫の昇天」（竹取物語） 漢文 ・思想「論語」「孟子」 ・「子曰学而時習之」「子曰吾十有五而志」 ・「子曰不憤不啓」「子貢問政」 ・「不忍人之心」	・本文を正しく音読することができる。 ・敬語表現の種類と用法を理解している。 ・文法事項を踏まえて現代語訳できる。 ・漢文の句形を理解し、中国の歴史や文化に親しみながら漢文を読むことができる。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解して、作品や文章を読み味わうことができている。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 予習として、本文を音読する。重要語句をノートに調べる。
- 2 副教材を活用し、文語文法、漢文の句形、文学史の事項を習得する。古文・漢文の文法書は授業時にも持参する。
- 3 繰り返し復習をし、授業の内容を完璧に身につける。
- 4 詳細については、担当者から指示に従うこと。

国語科 教科名 言語文化 のルーブリック					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 情報発信力 (表現力・論述力)	粘り強く取り組む力
評価規準			・日常生活や社会との関連を比較、分類して理解できる。 ・古語や文法、古文常識等を明確に理解できる。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身につけている。	・文章や言語を対比、分析、解釈する。 ・演習等を通して、推論、図解、検討する。 ・科学的に探究する力を身につけている。	・文学や言語学に関心を持ち、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけている。 ・語義や文法を尊重しながら読解し、解釈する態度を身につけている。 ・多様な仲間と協働する姿勢、粘り強く課題に取り組む姿勢を身につけている。 ・古典文学の世界を理解し、言語観、文学観を身につけている。
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	・日常生活や社会との関連を図りながら、文学や言語文化について理解したことを整理し、説明できる。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身につけ、応用できる。	文章や言語を対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、身につけ、習熟し、さまざまな場面で応用できる。	・文学や言語文化に強い関心を持ち、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけて、常に行動に移すことができる。 ・語義や文法を尊重しながら文章を解釈し、仮説を立て、検証する態度を身につけている。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけ、常に行動に移すことができる。
B	立高生として求める標準	レベル3	・日常生活や社会との関連を図りながら、文学や言語文化について理解したことを定義する。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を身につけ、活用できる。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、身につけ、習熟している。	・文学や言語文化に関心を持ち、主体的に関わろうとする態度を身につけて、行動に移すことができる。 ・語義や文法を尊重しながら文章を解釈し、理解する態度を身につけている。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけて、行動に移すことができる。
		レベル2	・日常生活や社会との関連を図りながら、文学や言語文化について理解したことを反復、引用する。 ・科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能をある程度身につけている。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解し、概ね身につけている。	・文学や言語文化に主体的に関わろうとする態度を身につけて、行動に移そうと努力している。 ・語義や文法を尊重しながら文章を理解しようとして努力している。 ・協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけて、行動に移そうと努力している。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	- 日常生活や社会との関連を図りながら、文学や言語文化について理解する。 - 科学的に探究するために必要な読む力、書く力、話す・聞く力に関する基本的な技能を理解している。	対比、分析、解釈などを行い、科学的に探究する力の基本的な部分を理解している。	- 文学や言語文化に主体的に関わろうとする態度を身につけようと努力している。 - 語義や文法を尊重しながら文章を理解することの重要性を理解している。 - 協働する姿勢、粘り強く取り組む姿勢を身につけようと努力している。
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載

科目名	文学国語演習Ⅰ		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	『精選文学国語』（明治書院） 『探求論理国語』（桐原書店） 新国語総合便覧（東京書籍） 入試漢字 2800（桐原書店） 新現代文単語（いっずな書店） 現代文長文記述問題集（いっずな書店）
学年 学級	2 年創造理数科 （1 クラス）	単位数	2	教科 担当	大坪

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	教科書 （小説）「山月記」中島敦 （小説）「ころも」夏目漱石 （評論）「器としての「わたしたち」」松村圭一郎 （評論）「変身に伴う快楽と恐れ」宮原浩二郎 （評論）「淋しい人間」山崎正和 問題演習	・ 小説の中の、場面の移り変わりや象徴的表現から、心情の変化を的確に読み取ることができる。 ・ 評論文を構造的に読解し、整理することができる。 ・ 評論文の用語を理解し、語彙力を高めることができる。 ・ 複数教材を関連させて分析することができる。
2 学期	教科書 （小説）「舞姫」森鷗外 （詩歌）「汚れちまった悲しみに…」中原中也 （評論）「ベルリンの「内」と「外」」前田愛 （評論）「ファンタジー・ワールドの誕生」今福龍太 （評論）「木を切る人／植える人」野口裕二 短歌十二首・俳句十二句 問題演習	・ 近代文語文に親しみながら、内容を正確に理解することができる。 ・ 小説をテキストとして分析し、的確に表現することができる。 ・ 韻文の表現技法を理解し、読解に活かすことができる。 ・ 文章の論理展開を負いながら、その論旨を正確に読みとって表現することができる。 ・ 近代以降の思想の枠組みを理解し、現代評論文理解の素養を養う。 ・ 複数教材を関連させて分析することができる。
3 学期	教科書（随想）「転移する記憶」岡真理 （評論）「物語と歴史の間」（野家啓一） （評論）「行動としての話し言葉」竹内敏晴 （評論）「身体と出現」平野啓一郎 問題演習	・ 文章の構造を考えながら読解し、正しく要約することができる。 ・ 1 年次からの 2 年間の学習内容を振り返り、近代以降の思想の枠組みと、現代評論文に取り上げられる社会の課題について理解することができる。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 休業中の課題や、小テスト・提出課題は、計画的・継続的に取り組み、必ず復習する。
- 2 授業中は、学習活動に集中し、提示された内容について深く考え、自分の言葉で説明する努力をする。
- 3 課題テスト・定期考査・模試は、返却後よく点検し、間違えた問題についてはなぜ間違えたのかを明らかにし、復習して定着を図る。
- 4 詳細は、各担当者の指示に従うこと。

ルーブリック評価				
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 情報発信力 (表現力・論述力)
評価規準			・文中における語彙を正しく理解し、文章の中で使用することなどを通して豊かな語彙を身につけている。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら読解し、内容と関連付けながら理解する態度を身につけている。	・文章で読んだ内容をふまえて表現したいことを明確にし、読み手や聞き手に伝わるよう文章の構成や展開を工夫している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握している。
A	立高生として目指すべき目標	レベル４	・文中における語彙を正しく理解し、さらに関連する語彙を身につけて活用することができる。 ・文章の表現技法や構成、論理展開に注意しながら読解し、内容と文章の特徴を関連づけて捉え、その効果を説明できる。	・文章で読んだ内容をふまえて表現したいことを明確にし、読み手や聞き手に伝わるよう文章の構成や展開を工夫して効果的に表現することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握し、説明することができる。
B	立高生として求める標準	レベル３	・文中における語彙を正しく理解して活用することができる、さらに関連する語彙も身につけている。 ・文章の表現技法や構成、論理展開に注意しながら読解し、内容と文章の特徴を関連づけて捉え、その効果を理解している。	・文章で読んだ内容をふまえて表現したいことを明確にし、読み手や聞き手に伝わるよう文章の構成や展開を工夫している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握することができる。
		レベル２	・文中における語彙を正しく理解し、活用することができる。 ・文章の表現技法や構成、論理展開に注意しながら読解し、内容と文章の特徴を関連づけて捉えている。	・文章で読んだ内容をふまえて表現したいことを明確にし、読み手や聞き手に伝わるよう表現することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を概ね理解している。
C	立高生として初歩的段階	レベル１	・文中における語彙を正しく理解することができる。 ・文章の表現技法や構成、論理展開に注意しながら、文章を読解することができる。	・文章で読んだ内容をふまえて、読み手や聞き手に伝えたいことを明確に表現することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえている。
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載

科目名	古典探究演習 A		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	古典探究古文編（筑摩書房） 古典探究漢文編（筑摩書房） 完全マスター古典文法（第一学習社） 錬成古典（尚文出版） 体系漢文（数研出版） 古文単語 330（いっずな書店） 新国語便覧（大修館書店）
学年 学級	2 年創造理数科 （1 クラス）	単位数	2 単位	教科 担当	工藤

期 間	授 業 計 画		到達目標
1 学期	古文・「初冠」（伊勢物語） ・「渚の院」（伊勢物語） ・「中納言参りたまひて」（枕草子） ・「二月のつごもりころに」（枕草子） ・「これも仁和寺の法師」（徒然草） 漢文・故事「先從隗始」（戦国策） 「人無有不善」（孟子） 「性悪」（荀子） 「守業」（韓非子） 「兼愛」（墨子）		・ 1 年次に学習した古文の基礎的な事項を理解した上で、古文を読むことができる。（助動詞・敬語・文法事項） ・ 古典文法の助詞の意味用法について理解できる。 ・ 1 年次に学習した漢文の基礎的な事項を理解した上で、漢文を読むことができる。（重要句形・語句の意味） ・ 思想について理解を深めることができる。 ・ それぞれの作品の文学的事項を理解できる。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。
2 学期	古文 ・「花山院の出家」（大鏡） ・「南の院の競射」（大鏡） ・「光源氏誕生」（源氏物語） ・「若紫の君」（源氏物語） ・『源氏物語玉の小櫛』（本居宣長） ・『源氏物語』の虚構（鈴木日出男） 漢文 ・ 史伝「鴻門之会」「四面楚歌」 ・ 漢詩 「長恨歌」「八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九」（白居易） 「送別」（王維） 「楓橋夜泊」（張繼） （テスト後 和歌）		・ 文章の難易度が上がっても、これまで学習した事項をもとに読み解き、内容を理解することができる。 ・ 文法事項に忠実に現代語訳をすることができる。 ・ 中国の歴史や文化に親しみながら漢文を読み味わうことができる。 ・ 思想について理解を深めることができる。 ・ それぞれの作品の文学的事項を理解できる。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。
3 学期	古文 ・「源氏の五十余巻」（更級日記） ・「道綱鷹を放つ」（蜻蛉日記） ・「深草の里」（無名抄） 漢文 ・「漁父辞」		・ 自ら進んで古典学習に取り組み、初見の文章の内容を捉えることができる。 ・ 漢詩のきまりについての知識を身に付け、鑑賞することができる。 ・ 共通テストレベルの古典学習を完成させる。 ・ それぞれの作品の文学的事項を理解できる。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 予習として、本文を音読する。重要語句をノートに調べる。
- 2 副教材を活用し、文語文法、漢文の句形、文学史的事項を習得する。古文・漢文の文法書は授業時にも持参する。
- 3 繰り返し復習をし、授業の内容を完璧に身につける。
- 4 詳細については、担当者から指示に従うこと。

ルーブリック評価					
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	粘り強く取り組む力
評価規準			・古典に用いられている語句の意味や用法を正確に理解し、古典を読むために必要な語彙を身につけている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解し、身につけている。	・古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえて、内容の解釈を深め、考察することができる。	・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。
A	立高生として目指すべき目標	レベル４	・古典に用いられている語句の意味や用法を正確に理解し、古典を読むために必要な語彙を豊富に身につけている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解し、説明することができる。	・文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意しながら内容を正確にとらえて説明することができる。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえて、内容の解釈を深め、考察したことを表現できる。	・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、自ら考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自ら自分の考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。
B	立高生として求める標準	レベル３	・古典に用いられている語句の意味や用法を正確に理解し、古典を読むために必要となる語彙を身につけている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解し、活用することができる。	・文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意しながら内容をとらえることができる。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえて解釈し、考察した内容を表現できる。	・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする態度が身につけている。
		レベル２	・古典に用いられている語句の意味や用法を正確に理解し、古典を読むために必要となる基本的な語彙を身につけている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。	・古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・作品の成立した背景を背景や他の作品などとの関係をふまえて解釈した内容を表現できる。	・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする態度がある程度身につけている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする態度がある程度身につけている。
C	立高生として初歩的段階	レベル１	・古典に用いられている語句の意味や用法を正確に理解している。 ・古典を読むための基本的な文語のきまりや訓読のきまりを概ね理解している。	・古典特有の表現に注意して内容をある程度とらえている。 ・作品の成立した背景を背景や他の作品などとの関係をふまえて解釈した内容をある程度表現できる。	・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする態度を身につけようとしている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする態度を身につけようとしている。
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載

科目名		国語探究 A		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	共通テスト+センター試験 国語過去 問題（尚文出版） 決戦国語完答 3 2 + 6（尚文出版） 実用文速読トレーニング（数研出版）
学年 学級	3 年普通科・創造 理数科（5 クラス）	単位数	2 単位	教科 担当	梅澤・渡邊・大坪	

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	オリエンテーション 国語の読解全般に必要な基礎力の習得。 I 評論の読解 II 小説の読解 III 図表などの読み取り IV 古典の読解（古文・漢文） 1・2 年次言語事項の復習	I ① 文章の論理的構成を、接続詞を重視して読みとる。 ② 対比事項、同義的表現を整理して、論理的に把握することができる。 II 叙述に即して、表現の効果や登場人物の心情を的確に読みとる。 III 図表などの文章以外のテキストを読み取る。 IV 初見の古文・漢文を正確に読み取ることができる。
2 学期	初見の文章を通した実践演習。 I 評論の読解 II 小説の読解 III 図表などの読み取り IV 古典の読解（古文・漢文）	・決められた時間内に、様々な分野の文章の内容を的確に読みとることができるようにする。 I 文章全体を読み、論旨の展開を把握することができる。 II 叙述に即して、登場人物の心情、風景描写、比喩表現などについての表現の効果や登場人物の心情を的確に読みとることができる。 III 図表などの文章以外のテキストを読み取り、論理的に説明することができる。 IV 初見の古文・漢文の読解に加え、他文献との比較による差異を考察できる。
3 学期	問題演習	・実践問題により、文章読解の総復習を行う。 ・実践問題により、文章表現の総復習を行う。 ・個々の進路に応じた個別指導を行う。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 休業中の課題や、小テスト・提出課題は、計画的・継続的に取り組み、必ず復習する。
- 2 授業中は、学習活動に集中し、提示された内容について深く考え、自分の言葉で説明する努力をする。
- 3 課題テスト・定期考査・模試は、返却後よく点検し、間違えた問題についてはなぜ間違えたのかを明らかにし、復習して定着を図る。
- 4 詳細は、各担当者の指示に従うこと。

ルーブリック評価					
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 情報発信力 (表現力・論述力)	粘り強く取り組む力
評価規準			・文中における語彙（現代文語彙・古文単語・句法）の意味内容を正しく理解し、読解につなげることができる。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握している。	・課題を見つけ、その課題を粘り強く解決しようとする姿勢を身につけている。
A	立高生として目指すべき目標	レベル４	・文中における語彙（現代文語彙・古文単語・句法）の意味内容を正しく理解し、読解につなげることができる。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握し、説明することができる。	・課題を見つけ、その課題を粘り強く解決しようとする姿勢を身につけている。
B	立高生として求める標準	レベル３	・文中における語彙（現代文語彙・古文単語・句法）の意味内容を正しく理解し、読解につなげることがおおむねできている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を把握することができる。	・課題をみつけ、その課題を粘り強く解決しようとする姿勢をある程度身につけている。
		レベル２	・文中における基本的な語彙（現代文語彙・古文単語・句法）の意味内容をおおむね理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえ、複数の文章や資料との関係を概ね理解している。	・課題を粘り強く解決しようとする姿勢をある程度身につけている。
C	立高生として初歩的段階	レベル１	・基本的な語彙（現代文語彙・古文単語・句法）を定着させる必要がある。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などをとらえている。	・課題を粘り強く解決しようとする姿勢を身につけようとしている。
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載

科目名	国語演習 A		必修 学校必修 選択必修 自由選択	使用 教材	古典探究古文編・古典探究漢文編・文学 国語・論理国語（筑摩書房） 完全マスター古典文法（第一学習社） 新明説漢文・実践記述力強化演習 現代 文（尚文出版） 上級編古典読解問（駿台文庫）
学年 学級	3 年創造理数科 （1 クラス）	単位数	2 単位	教科 担当	北嶋

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	・現代文記述基礎演習（答案の書き方） ・古文記述演習（基礎的な知識／書き方の定着） ・漢文記述演習（基礎的な知識／書き方の定着）	・「問の種類による考え方の違い」「解答の骨の書き方」をマスターする（現代文）。 ・使用語彙を増やす（現代文・古典）。 ・逐語訳的現代語訳を完璧にする（古典） ・説明問題において、現代語訳を意識した解答が作れるようにする（古典）。
2 学期	・現代文記述応用演習（答案作成力の完成） ・古文記述演習（応用的な演習と答案作成力の完成） ・漢文記述演習（応用的な演習と答案作成力の完成）	・1 学期にマスターした「解答の骨の書き方」をベースに、修飾的な語彙をどのように入れて解答を完成させるかを体得する（現代文）。 ・使用語彙を増やす（現代文・古典）。 ・逐語訳的現代語訳をベースに、本文全体を踏まえた現代語訳ができるようにする（古典） ・説明問題において、現代語訳・本文全体・注等を意識した解答が作れるようにする（古典）。
3 学期	・過去問対策（個別対応を含める）	

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- 1 なるべく早く古文単語・漢文句形を完成させる。
- 2 現代文については、扱った内容について復習し、背景知識を身に付ける。
- 3 演習を通して自身の知らなかった知識を洗い出し、穴を埋めていく。
- 4 毎回必ず課す授業後提出課題を出す。

※ この授業では定期考査時に試験を実施しない。基本的には、毎回出される提出課題の出来で判断をする。

※ 授業内試験を実施することがある。これも評価の材料とする。

ルーブリック評価						
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	粘り強く取り組む力	
評価規準			・今までに獲得した語彙・文法等の言語知識を活用して答案を作ることができる。	・何が問われているか、どのように書くべきかを考えて答案を作成することができる。	・授業で出される課題に取り組み、自学することができる。	
A	立高生として目指すべき目標	レベル４	・文脈や文字数に応じて、語彙、古文単語、古典文法、漢文用字、漢文句形等基本的な知識の正確性や量を答案に反映できている。	・問われていることを精査し、本文の論理を壊すことなく、与えられた条件をすべてクリアし、必要な部分は適宜自分の言葉で置き換えながら答案を作成することができる。	・授業で扱った題材についてきちんと復習した上で、授業で出された課題をすべて提出し、実施された小テスト等の解きなおしとして自身の知識を盤石にすることができる。	
B	立高生として求める標準	レベル３	・必要なことをおさえつつ、語彙、古文単語、古典文法、漢文用字、漢文句形等基本的な知識の正確性や量を答案に反映できている。	・問われていることに向き合い、本文の論理を壊すことなく、必要な条件を満たして答案を作成することができる。	・授業で扱った題材についてきちんと復習した上で、授業で出された課題をすべて提出することができる。	
		レベル２	・答案に反映しきれていないものの、語彙、古文単語、古典文法、漢文用字、漢文句形等基本的な知識の正確性や量はある。	・問われていることを外さずに、必要な条件を満たしたうえで、答案を作成することができる。	・授業で出された課題をすべて提出することができる。	
C	立高生として初歩的段階	レベル１	・語彙、古文単語、古典文法、漢文用字、漢文句形等基本的な知識の正確性や量が十分ではないものの、一定程度理解している。	・問われたことに向き合い、答案を作成することができる。	授業で出された課題を概ね提出することができる。	
評価方法			・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	・ペーパーテスト・レポート、論述課題・行動観察	
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A, B, C で記載	